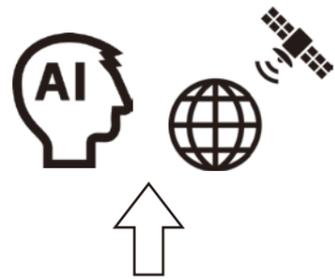


新たな社会 Society5.0

仮想空間(サイバー空間)と現実空間(フィジカル空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のことを言います。



Society4.0 情報社会



Society3.0 工業社会



Society2.0 農耕社会



Society1.0 狩猟社会



～ふながたのデジタルファースト～ まずは教育から



無線LAN
アクセスポイント

電子黒板

ICT支援員
佐藤 周作さん

タブレット端末

ICT支援員による授業を展開
現在町では、ICTを活用した授業の事例を示した共有やICT支援員による先生や児童生徒へ操作研修などを、授業のカリキュラムに盛り込んで、タブレットの活用が始まっています。
ICT教育担当の先生やICT支援員、タブレット導入業者、町教育課で打ち合わせを行い、これからのような教育支援アプリが必要になるか、そして、どのように活用するのが効果的なのかなど検討を重ねています。

国が推進する「GIGAスクール構想」に基づき、町では今年1月に、小中学校でタブレット端末が一人1台整備されました。実際に生徒たちがタブレットを手に取り、授業が始まりました。
町のデジタル化の推進とともに、今後、タブレット端末などのICT機器が、どのように授業に活用されていくのかを探ります。

デジタルファースト推進室の新設
町では、少子高齢化、労働人口減少などが進む中、町を持続して運営していくためには、デジタル技術の活用がいち早く取り組むことが必要と考え、昨年4月にデジタルファースト推進室を新設しました。
進化する情報技術に対応できるように職員の育成を図り、今後変化していく住民のニーズに対するサービスの提供を、医療・教育・福祉などの垣根を越え推進していきます。
令和2年度からスタートした町の総合発展計画にもデジタルファーストプロジェクトを掲げ、ICTを活用したデジタル化を重点プロジェクトとして進めています。

「GIGAスクール構想」とは
GIGAスクール構想とは、国が推進するプロジェクトで、児童生徒一人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを整備し、ICT技術を活用することで、子どもたち一人ひとりに合わせた教育を行うことを目的としています。そして、これまでの国の教育実践と最先端のICTを掛け合わせることに、教師、児童生徒の力を最大限に引き出すことを目指すものです。

なぜ今、GIGAスクール構想が必要
日本は諸外国に比べICT化が遅れているといわれています。教育現場においても同様で、Society5.0時代において求められる資質・能力を育成するために、ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用し、基礎的な力を確実に習得できるようにするため、GIGAスクール構想が必要であるとされています。

ICT機器の活用で 教育はどう変わる

ICT機器とは、タブレット端末やパソコン、電子黒板など、人とのコミュニケーションにおいて効果を発揮するものを言います。では、一人1台のタブレット端末があると…

◆**一斉学習**：一人ひとりの反応が把握でき、きめ細やかな指導が可能となります。

◆**個別学習**：同時に別々の内容を学習できるように、一人ひとりにあった学習が可能になります。

◆**グループ学習**：お互いの考えをICT機器ですぐに共有、意見交換が可能となり、多様な意見にも触れられます。